



乳腺腫瘍

■ 病気の概要

乳腺腫瘍は犬によくみられる腫瘍です。未避妊の雌犬・雌猫に多く、犬では約 50%、猫では約 80～90%が悪性とされます。初回発情前の避妊手術で発症する可能性を大幅に下げることができます。

■ 主な症状（飼い主さんが気づくサイン）

- ・ 乳腺部（お腹のライン）にしこりを発見
- ・ しこりが急に大きくなる
- ・ しこりが硬く固着している（悪性のサイン）
- ・ 皮膚がただれる（進行した場合）

■ どんな検査をするの？

- ・ 身体検査（しこりの大きさ・硬さ・個数・固着しているかの確認）
- ・ 細針吸引細胞診
- ・ 組織生検・病理検査（良悪性・組織型の判定）
- ・ 胸部 X 線検査（肺転移の確認）
- ・ 腹部超音波検査

■ 治療方法

内科治療

- ・ 化学療法（悪性・切除ができない場合）
- ・ 疼痛管理（痛みを和らげる治療）

外科治療

- ・ 乳腺腫瘍摘出術（周りの組織ごと切除）
- ・ 腫瘍に近いリンパ節の同時切除
- ・ 早期・完全切除が最も重要

■ ご家庭で気をつけること

- ・ 月 1 回のご家庭での触診（しこりがないか、お腹全体を触って確認）
- ・ 新しいしこりや変化を早めに確認
- ・ 術後の傷のケア
- ・ 定期的な検診（3～6 ヶ月ごと）

■ よくある質問

Q. 避妊手術で予防できますか？

A. 初回発情前の避妊手術で発症リスクを大幅に下げることができます。

Q. 小さいうちに手術した方がいいですか？

A. はい。腫瘍が小さいほど完全切除しやすく、転移前に対処できる可能性が高くなります。

Q. 猫の乳腺腫瘍は特別ですか？

A. 猫では80～90%が悪性です。発見したら早めの検査・手術をお勧めします。

■ なつ動物病院での診療について

細胞診・病理検査から外科切除・術後フォローまで対応します。「お腹にしこりがある」気になった場合はお早めにご来院ください。

なつ動物病院 気になることがあれば、予約外でもお気軽にご来院ください